

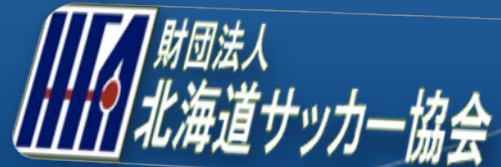
北海道トレセンキャンプ

U-15/16

2011年4月15～17日

【報告者】 國田英一郎(U-15) 大西真司(U-16)

場 所 東雁来公園グランド
宿泊場所 札幌サンプラザ



2011年/2012年国体へ トレセンキャンプ始動

1. U-15 キャンプの概要

● 2012岐阜国体へ

昨年1月の関東遠征に引き続きこの年代の強化活動、つまり2012年の岐阜国体へ向けた取り組みの一つである。この年代の選手の多くは、チームではカブスリーグで主力となって闘うメンバーであるため、チームの活動がメインであり、チームの活動の中で個の力を伸ばしていくことが大切であると考え。そのため、このキャンプでは、北海道としての目標と課題を選手個々が持ち帰り、主にチームで力を伸ばして、次回の召集に向けて努力してほしいと考える。

また、10月末に地区トレセン対抗戦(各地区+札幌中体連+コンサ札幌旭川合同)があるが、今年度 U-15 北海道代表としての活動は11月中旬に予定されている関東遠征のみである。このようなことから選手個々の自立したサッカーへの取り組みが重要である。

今回のキャンプでは、昨年度の U-14 における各活動から道外遠征参加メンバーを中心に16名が参加した。中3だけでなく高校1年生(早生まれ)も参加している。

U-15

- ポイント
- ・ いつもの確なポジションへ
 - ・ アクションを起こす
 - ・ スペースの利用
 - ・ 1stDF の素早い決定
 - ・ 連動した守備

スケジュール

- ・ 15 日 PM 『ゲーム VS U-16』
- ・ 16 日 AM 『パス&コントロール』
『連動した守備』
- ・ 16 日 PM 『ゲーム VS U-16』
- ・ 17 日 AM 『ポゼッション』
『ゲーム VS U-16』

選手16名

函館4名、コンサ札幌6名、札幌3名、
コンサ旭川1名、網走1名、十勝1名



北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！
日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！
和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2. ゲーム内容

(1) チームとして

選手たちは3ヶ月ぶりの集合ということもあり、お互いのプレーの方向性が分かり合えず、ぎくしゃくする場面があったが、ゲームをこなしていくうちにすぐに理解できるようになった。指導者からコンセプトを伝えたこともあったが、多くの選手は戦術理解度が高いと感じた。

(2) 連動した守備

選手たちの個々の守備意識は高かったが、1stDFの決定に迷いがある場面があり、お互いのポジションをコミュニケーションによって明確にしていく必要があると感じた。また、2ndDFの距離や角度、ボールから遠い選手のポジショニングについても、もっと状況に応じた修正を細かくしていかなければならないと感じた。例えば、相手が前を向いてボールを保持しているときに、カバーの意識が背後ばかりになってしまい、全体的にラインが下がってしまうことが多くあった。もっと、ボールを中心としてパスコースを限定するポジションに配置したり、マークをずらしてでもできるだけ前で奪う(アプローチする)ことを優先しそれに伴って全体が陣形を整えたりするような連動した守備を心がけてほしい。

(3) 決定力・決定率

相手がU-16ということもあり、数多くの決定的なチャンスをつくるというところまでは行かなかったが、味方のボールの持ち方に応じて的確にポジションをとることはできた。とくに、ミドルゾーンではボールを失わずに人とボールを前に運ぶプレーを選択していた。

ただし、せっかくつくったチャンスをものにできたかというところの課題が残る。

- スピードに乗ると、それに反比例して視野が狭くなってしまう。→ドリブルやボールを蹴ることばかりに意識を集中させず、相手とのかけひきや味方の動きを利用するようなプレーを身につけていく必要があるだろう。
- トップにくさびのパスが入った後のプレーの選択肢が少ない。→ボランチを使って2対1の局面をつくって相手を崩す、トップどうしがお互いの意図を生かせるようアクションを起こすなどのコンビネーションプレーを磨く必要がある。



U-15

今後の課題

- ・ 連動した守備からのボール奪取
- ・ フィニッシュの精度
- ・ 厚みのある攻撃

今後のスケジュール

- 10月 トレセン交流大会
※道代表チームは構成しない
- 11月 道外遠征
- 4月～ U-16として活動
…そして国体へ(9月末～10月)



U-16

1. U-16 の概要

今回のトレセンキャンプは2011年シーズンの幕開けと同時というような時期で、会場となった東雁来公園においてもほんの1週間前からようやく使用できるようになったという状況でした。選手においても継続的にトレーニングができていた選手と、しばらく間が開いてしまって厳しい状況の選手と分かれていたように思います。しかし、トレセンキャンプに召集される選手であれば、チームの状況を考えながら個人としての準備を常に怠らないようなセルフコントロールを身につけて欲しい年代でもあると思います。

そして、この3日間の天候状態も悪く、低温・強風の中でのプレーということで選手自身が一番ストレスを感じていたのではないかと思います。



2. 内容

おおまかな目的は、1月に実施されたU-15トレセン交流会でプレーを見られなかった選手やこの年代での早生まれ選手(いわゆる高2年代)での選考なども考え、ある程度ポジションの確認を含めた11対11のゲーム形式を中心として行いました。チーム編成はU-15・U-16(A)・U-16(B)の3チームによるリーグ戦形式を取り入れながら、それぞれのゲームにおける課題を修正するトレーニングをプランニングし、実行。そしてまたゲームをという、いわゆるM-T-M形式のトレーニングメソッドに沿ったものでした。

そして、その中で選手にはフットボーラーとしての「サッカー理解」を深められるよう要求をしました。

3. 分析

- ① 選手の様子から、トレーニングに対する反応はしているが、その成果がゲームに生かされていないように感じた。
- ② ゲーム運びのイメージが薄いように思う。それは、ポゼッションの意識はあるが前には進まず自陣コート内でのボール回しが多いことや、ポジションにおける3ラインは意識できるが自分とボールの関係でしかとらえられずにいるので、みんな同じようなタイミングで同じような動きをしていることが多く、選択肢が少ない。
- ③ 攻撃の優先順位の整理がついていないのか、突破に関わる動きやイメージが薄く相

手の最終ラインの裏を突く場面がない。

- ④ GKは攻撃の起点となるような連携の取れた動きがなく、ボールの出どころがないままパントキックでロングフィードする場面が多い。
- ⑤ 守備の場面でGKとの協力(コミュニケーション)がなくピンチを作らないという意識が薄いためシュートを必死にストップするGKの姿が多かった。
- ⑥ U-16のメンバーを2チーム分の22名で召集したが、ケガや学校事情等で欠員となったポジション(DF)をU-15のメンバーで埋めてもらったが同等のプレーができていた。

今後に向けて

次回6月に実施予定の中期トレセンキャンプではある程度ポジションの役割を果たせる選手を選考し、他チームとの練習試合を通じて国体チームの母体を作っていきたいと考えている。

選手22名

十勝1名、コンサ札幌9名、札幌8名、室蘭2名、旭川2名